



大石田町議会「行政調査」報告書

令和6年6月28日

大石田町議会 総務文教常任委員 今 野 雅 信

期 間 令和6年6月25日(火)から令和6年6月27日(木)まで計3日間

出張先 徳島県 勝浦町、佐那河内村

用 件 勝浦町 通年議会制、議会運営について

佐那河内村 移住定住施策について

報告大要

・勝浦町

通年議会制、議会運営について

勝浦町議会では、新潟県立大学田口博一准教授のアドバイスを受け、平成23年から議会の改革に取り組んでいる。平成25年から『マラソン議会』（通年議会制）を導入。また、親しみやすいネーミングで、町民に興味を持ってもらおうと3月は『ひな会議』、7月は『若あゆ会議』、11月は『みかん会議』と取り組んでいる。新たな議会運営機能として読会制の導入。また、本議会への参考人招致、議員による自由討論、議長の質問も可能にしている。

通年議会制にしてのメリットとして、「補正予算や契約・人事案件などの議決が迅速に出来る」「工事請負契約締結の審議も迅速に出来ることから早期に発注

することで工期に余裕が出来る」「専決事項が少なくなる」「執行部との協議を重ね問題点の修正も素早く行える」など議会がよりスピーディーに議決し町民にも分かり易くなったようだ。また議員にとっても年間の会議日を条例で決めておくので、行事や仕事の予定をたてやすくなったようだ。年間スケジュールが分かることにより、議員のなり手不足対策にもなっているのではとのことだった。

デメリットについてはほとんどなく、問題があれば色々な取り組みで補えるようだ。懸念していた会議日数や委員会の増加もなく通年議会制を導入する前とほとんど変わらないとのことだった。

昨年から通年議会制の研修をして、メリットは大いにあるように感じる。大石田町議会が通年議会制を導入していけるのか、もっと検討していかなければならないと考えるが、前向きに進めていきたいと感じる。町民に分かりやすい議会、議会の活性化のためには、議会が自らの改革をしていくことが大切だ。議会活性化委員会を中心に開かれた議会・信頼される議会を目指して改革に臨んでいかなければと感じた。

・佐那河内村

移住定住施策について

佐那河内村では多様化する移住・定住希望者のニーズに対応するため、分譲住

宅の造成事業、村営住宅の建設及び空き家のあっせん等に取り組んでいる。また、住宅の新築、中古住宅の取得、住宅改修、自己住宅新築のための用地取得等に対する補助を行っている。

移住希望者に対しては窓口を移住交流支援センターに一本化し、3名の移住コーディネーターに地域の伝統や風習など暮らしのアドバイスや相談等に対応しているようだ。きめ細やかな対応と、補助・助成金の他市町村にない取り組みにより、移住者124人（46組）定住者119人（37組）と大きな成果をあげているようだ。

佐那河内村でも少子高齢化による人口減少問題は、基幹産業とする農業の後継者不在問題が大きな影響を及ぼしている。そこで、ブランド農作物『さくらももいちご』の担い手確保に向けて、次世代へ継承することを目的とし、地域おこし協力隊を活用した担い手増加対策に取り組んでいる。移住・定住者、地域おこし協力隊により合計12組の就農（就農予定）となっているようだ。

大石田町と共通の課題が沢山ある中、移住定住に向けて大きく力を入れることで他の市町村より目に見える数字で結果が出ているように思う。他市町村を真似るのではなく、大石田町にあった取り組み、そして大胆な補助や施策が必要ではと感じた。

今回の行政調査でご対応頂いた議会の皆さん、町村職員の皆さんにはご多忙

の中、対応いただき感謝です。私たち大石田町議会でも、議会改革、町をより良くするための施策について、学んだことを今後の議会活動に活かし、開かれた議会・信頼される議会に努めていきたい。